

2009年2月4日
日本銀行松本支店

最近の食料品製造業の生産動向

長野県の鉱工業生産指数（業種別）について、今回の景気後退期直前月に当たる07/10月から最近（08/11月）への増減率をみると（別紙）、主要の各機械工業の減少率が全体の減少率（▲15.1%）に比べて大きくなっており、これらが全体の生産を引き下げている。一方で、食料品製造業は同▲3.9%と比較的健闘している。

県内食料品製造業の各社にヒアリングしたところ、食料品の生産は、鉱工業生産全体が大幅に減少している中であって、総じてみれば底堅く推移している。もともと、全ての製品が堅調となっている訳ではなく、用途などによって好不調が分かれている。すなわち、家庭内調理用食材は、消費者の「外食から内食へのシフト」によって生産は堅調に推移している。一方で、嗜好品は消費者の節約志向の強まりから、外食産業に卸す業務用食材は消費者の「外食控え」による外食産業の不振から、それぞれ生産が減少している。

—— 家庭内調理用食材の生産は、味噌や弁当用食材、寒天等を中心に全体として堅調に推移している。ただし、節約志向の高まりから大容量パックよりも価格の安い小容量パックのほうが好調となっている。

—— ジュースや酒類といった嗜好品は、「まとめ買い」する消費者が減っており生産が減少している。また、贈答・土産用製品の生産も減少している。また、業務用食材も消費者の「外食控え」による外食産業の不振から生産が減少している。

この間、穀物等市況は下落しているほか、為替は円高傾向となっている。こうした影響について各社に聞いてみると、仕入れから生産までの間に数ヶ月のタイムラグがあることから、収益面の改善はまだみられていないという先が多い。中には「売上げが伸び悩んでいる小売業や外食産業から為替円高や市況の下落を交渉材料とした値下げ要求が強まっている」との声も聞かれており、収益面では厳しい状況に置かれている先が多い模様である。

以 上

長野県内鉱工業生産指数の業種別増減率

業種	ウェイト (1万分率)	増減率 ^(注1)	主要業種・品目名 ^(注2)
化学工業	275	12.6	医薬品製剤 (252)
紙・紙加工品工業	22	0.5	段ボールシート (16)、板紙 (6)
精密機械工業	519	▲ 2.3	時計 (231)、眼鏡レンズ (128)
繊維工業	49	▲ 3.2	ニット・繊維二次製品 (35)
食料品工業	1,139	▲ 3.9	味そ・しょう油 (316)、清涼飲料 (295)、乳製品 (145)、めん類 (143)
窯業・土石製品工業	256	▲ 6.0	生コンクリート (116)、電極 (58)
その他工業	255	▲ 13.1	印刷業 (117)、金属製家具 (54)、ゴム製 品工業 (44)
輸送機械工業	587	▲ 13.9	自動車部品 (569)
鉱工業計	10,000	▲ 15.1	
鉄鋼業	61	▲ 16.2	銑鉄铸件 (46)
プラスチック製品工業	295	▲ 16.8	プラスチック製品・機械器具部品 (106)
電気機械工業	1,353	▲ 17.4	小型電動機 (373)、サーボモータ (295)、電気測定器 (221)
一般機械工業	1,707	▲ 17.8	金型 (232)、プラスチック加工機械 (173)、産業用ロボット (150)
金属製品工業	155	▲ 19.8	うす板ばね (101)、線ばね (35)
電子部品・デバイス工業	2,213	▲ 20.1	電子回路基板 (540)、固定コンデンサ (235)、シリコンウエハ (176)
非鉄金属工業	125	▲ 25.3	アルミニウム铸件 (62)、銅電線 (29)
情報通信機械工業	965	▲ 26.5	カーナビゲーションシステム (245)、カー オーディオ (103)、パーソナルコンピュー タ<資本財> (97)
木材・木製品工業	22	▲ 26.9	製材<建設財> (15)

(注1) 景気後退期入り直前 (07/10月) から最近 (08/11月) の増減率

(注2) 括弧内は主要製品・品目のウェイト

(出所) 長野県